



浜松営業所 業務次長

 さわい はるひこ  
**澤井 春彦**

浜松営業所で業務次長として働く澤井春彦さん。南星キャリアクス株式会社への入社は2006年(平成18年)ですが、実はそれ以前にもリフト作業員として働いていたことがありました。そんな澤井さんに、戻って来たいと思わせる会社の魅力やこの仕事の面白さについてインタビューしました。

—— **まずは南星キャリアクスへの入社と退職、復帰の経緯を教えてください。**

若い頃は車好きが高じてトラックの長距離ドライバーをしていたのですが、小さい子どもと家で過ごす時間がなかなか取れず、転職しようと思ったのです。そんなときに出会ったのが南星キャリアクス。同じ業界です。仕事によくトラックを見かけていたため馴染みもあ

り、会社の雰囲気も良さそうだな。また、私は以前自前のトラックで小さな段ボール会社の配送をしていたので、全国規模の段ボール会社である株式会社トーモクと関係が深い浜松営業所なら経験を活かせると思ったのも決め手になりました。

入社後は構内作業部門で5年ほど働き、妻の実家の家業を手伝うために一度退職したのです。ところが、約1年後にその事業をたたむことになってしまいました……。当時浜松営業所の所長だった小向さんに相談したところ、「自分の右腕として業務のほうに入らないか」と誘っていただいたのです。

—— **運送会社が数多くあるなかで、あえて古巣に戻る選択をしたのはなぜですか。**

やはり一番は居心地の良さで持っている仕事のスキルやノウハウをきっちり部下たちに引き継ぐのが目標です。業務以外では、人と人との関係を大事にすることも伝えたいですね。仕事の内容や給料ももちろん重要ですが、私は人を一番大切にしてきましたし、本当に人に恵まれて今日まで来ました。そういうところもバトンをつないでいてほしいと考えています。

トラブルすらも「解決するのが面白い」と前向きに捉えている澤井さん。経験豊富なベテランでありながら「たくさんの人が支えてくれるからこそ」と感謝を忘れない姿勢も印象的でした。その心意気を後輩たちに示しながら、今後も力強く未来を切り拓いてくれるでしょう。



すね。事務職員として戻るというのは予想外でしたが、事務の担い手が少なく小向所長が苦勞していたので、私を拾ってくれた恩返しも兼ねてオファーを快諾したのです。

ただ、復帰したばかりの頃は右も左も分からず苦勞の連続でした。それまで業務でパソコンを扱うことなど皆無でしたから、周りに教えてもらいながら必死で勉強したものです。今で

はなんとか理解できるようになり、経営面にも関わるようになってきました。主任クラスは上からの指示をもとに現場目線で動けば良いのですが、課長以上になると本社との関わりも出てきて、月の売り上げ、出費、利益も見なければなりません。南星キャリアクスは各営業所に配を任せているので、一営業所でありながら中小企業を経営するような感覚が求められます。所長の責任の重さをよく知っているので、少しでもそこに自分が貢献していけたら良いなと思いつながら働いてきました。

—— **ドライバーから事務方へ転身した今、仕事のどのような点に面白さを感じていますか。**

私たちの仕事はルート配送とは違って荷物の量も行き先も毎日大きく変わるので、良くも悪

—— **最後に今後の目標をお聞かせください。**

2023年3月に私は定年を迎えます。それまでに自分が